

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが、確かな学力と豊かな人間性を備え、高い志をもって、伸び伸びと主体的に高校生活を送ることのできる学校をめざします。

- 1 学業を第一として捉え、知識や技能の習得とともに、考える力、学ぶ意欲を育みます。
- 2 他者と協働する様々な活動を通して、主体性、協調性、自律性、社会に貢献する力を育みます。
- 3 自らの意思で行動し、夢の実現に向かって努力を継続する力を育みます。

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現

(1) 教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。

- ア 学習に向かう意識を向上させるとともに、授業見学、校内研修、授業アンケート等により継続的な授業改善を図り、生徒の学力向上に結びつける。
- イ 「魅力的な授業・わかる授業」を確実なものとし、さらに一歩進んで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

(2) 自学自習する力を育む。

- ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。
- イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。

(3) 進路指導の充実に取り組む。

- ア 3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。
- イ 模擬試験や学びの基礎診断等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。

授業満足度	R4年度には85%以上を維持 (H29 88%、H30 86%、R1 88%)
授業以外の学習1時間以上	R4年度には60%をめざす (H29 27%、H30 40%、R1 30%)
進路指導に対する肯定率	R4年度には85%以上を維持 (H29 87%、H30 85%、R1 88%)

2 豊かな人間性の涵養

(1) 学校・地域において他者と協働する様々な活動を通じて人間性を育む。

- ア 体育祭、文化祭等の学校行事や部活動を通して、生徒に考え、行動させながら、主体性、協調性、自律性を育む。
- イ 地域の奉仕活動・交流活動、その他様々な発表の場面に積極的に参加させ、社会に貢献する力や自己肯定感を育む。

(2) 学校生活における規律を身に付けさせる。

- ア 全校的で効果的な生活指導・遅刻指導を行い、時間・規則を守る意識を育む。
- イ 保護者の協力を得ながら交通安全指導を行う。
- ウ 清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。

部活動加入率	R4年度には75%をめざす (H29 65%、H30 65%、R1 60%)
遅刻者数	R4年度には1000人をめざす (H29 1660人、H30 1285人、R1 1170人)

3 活力ある学校づくり

(1) 専門コース等の教育内容を一層充実させる。

- ア 国際交流の推進により、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際的な視野を育む。
- イ 英語専門コースでは、英語力を鍛え、英語を専門的に研究・活用する学部・学科への進学の実現をめざす。
- ウ 理数専門コースでは、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせるとともに、理系学部・学科への進学の実現をめざす。

(2) 新たな教育課題に対して全校的に取り組む。

- ア 新しい学習指導要領及び大学入学者選抜等の実施に関して、教科や分掌の垣根を越えて学校として取組みを進めていく。
- イ 業務の統合や会議の効率化などを図り、教職員の働き方改革を進めていく。

(3) 学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。

- ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の広報を充実させる。
- イ Web ページ、阜メール等により、学校情報を積極的に伝える。

ウ 危機管理体制を充実させる。 学校説明会理解度 R4年度には90%以上を維持 (H29 90%、H30 98%、R1 99%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1) 教科指導の充実 ア 継続的な授業改善 イ「主体的・対話的で深い学び」の実現	ア・授業力向上委員会が目標等を設定する。 ・日常的に授業見学を行い、助言を積み重ねることにより、相互の授業改善に繋げる。 イ・校内研修授業及び研究協議、情報交換等により、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業を行う。	ア・授業満足度 85%以上維持 (R1 88%) ・授業見学 2.5回/人 (R1 2.7回/人) イ・自己評価「学習形態等の工夫を行った」85% (R1 82%)	
	(2) 自学自習する力の育成 ア 学習に向かう意識の向上 イ 基礎・基本の学び直しの場づくり ウ 読書活動の推進 エ 資格取得の奨励	ア・適切に宿題・課題を出し、実行させることにより、家庭学習を習慣付ける。 ・充実した講習・補習を設け、積極的な参加を促し、目標達成に向けて努力させる。 イ・図書室内に自習スペースを整備し、自学自習できる環境を充実させる。 ウ・授業での活用や図書委員会の活動により、図書館に対する親近感を向上させる。 エ・各種の検定の積極的な受験を促し、授業や講習を通して合格のための力を付ける。	ア・授業以外の学習1時間以上の生徒 40% (R1 30%) ・講習・補習の延参加者 3000人以上 (R1 4552人) イ・自習スペースの活用状況 ウ・図書館利用率 30%以上 (R1 24%) エ・英検受験者数 80人以上維持 (R1 80人)	
	(3) 進路指導の充実 ア 3年間を見通した進路指導 イ 模擬試験や学力生活実態調査の活用	ア・1年次「職業理解」2年次「上級学校理解」3年次「進路実現」の目標に沿って、進路HRを中心に継続的な進路指導を行う。 イ・模擬試験の実施前にガイダンス、実施後に分析会を行い、指導に生かす。	ア・進路指導に対する肯定率 85%以上を維持 (R1 88%)	
2 豊かな人間性の涵養	(1) 協働的活動を通じた人間性の育み ア 体育祭や文化祭等の学校行事の充実 イ 部活動の活性化 ウ 地域貢献	ア・体育祭や文化祭、HR活動を通して、リーダーを中心に生徒に考え行動させることにより、生徒の主体性を育む。 イ・新入生への入部の勧誘に一層取り組む。 ・3年間部活動を継続できるよう、充実した指導や丁寧な対応で生徒をサポートする。 ・部員による校内あいさつ運動を奨励し、学校の活性化に繋げる。 ウ・地域の奉仕活動及び交流活動(地域清掃、SGS(スクールガードサーター)中学生との部活動交流、地域活動への出場等)により、社会に貢献する力を育む。	ア・体育祭満足度 90%以上 (R1 90%) 文化祭満足度 85%以上 (R1 88%) イ・部活動加入率 65% (R1 60%) ・校内あいさつ運動への参加延部活数 60以上 (R1 65) ウ・地域の奉仕活動や交流活動への参加者数 800人以上 (R1 810人)	
	(2) 学校生活における規律の確立 ア 遅刻指導の取組み イ 保護者と連携した交通安全指導 ウ 清掃指導の徹底	ア・生徒の規範意識の醸成に努め、落ち着いた校内環境を維持する。 ・遅刻防止週間の設定、毎朝の校門指導等、全校体制で遅刻指導に取り組む。 イ・保護者と連携した交通安全指導及び意見交換会を開催し、自転車通学における安全確保と交通マナーの改善へ繋げていく。 ウ・毎日の掃除を徹底し、学習環境を整える。	ア・遅刻者数 前年度 10%減少 (R1 1170人) イ・交通安全指導及び意見交換会を年3回実施し、保護者に情報を提示する機会を設ける。 (R1 3回) ウ・教員の肯定的評価 50% (R1 38%)	
3 活力ある学校づくり	(1) 専門コース等の教育内容の充実 ア 国際交流の推進 イ 英語コースの充実 ウ 理数コースの充実	ア・海外から留学中の大学生等の授業参加 イ・英語4技能を一層伸ばす指導 ・英語検定対策 ウ・生徒の習熟度を踏まえた課題、講習の充実 ・実験を通じた科学的探究能力・プレゼン力の育成	ア・留学生等を1人以上招く (R1 2人) イ・英検合格 2級 2人以上 準2級 4人以上 ウ・学校説明会での模擬授業で生徒が中学生を指導する。	
	(2) 新しい教育課題への取組み ア 新学習指導要領や大学入学者選抜への対応 イ 働き方改革	ア・新学習指導要領の研究と本校の教育課程の編成について、教務部長を中心として検討し、完成させる。 ・新しい大学入学者選抜への対応について、進路指導部長を中心として準備を進める。 イ・掲示板の活用により、職員会議での報告に要する時間の短縮を図る。	ア・教育課程検討の進捗状況(指導要領の研究、教育課程の完成など) ・大学入試対策の進捗状況 イ・掲示板活用数 50件以上 (R1 44件)	
	(3) 教育活動の積極的な情報発信 ア 広報の充実 イ Webページ等による情報発信 ウ 危機管理	ア・学校パンフレットの改訂等を行い、学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の充実を図る。 イ・Webページ、携帯連絡網等により、学校の情報保護者や地域に積極的に発信する。 ウ 危機管理体制の再構築と、教職員及び生徒等の緊急連絡体制の充実を図る。	ア・学校説明会 理解度 90%以上を維持 (R1 99%) イ・Webページ更新 200回以上を維持 (R1 202回) ウ・緊急連絡体制の整備状況	